

岐阜県恵那農林事務所との連携

(恵那農業高校の国有林での学習等の取組外)

中部森林管理局 東濃森林管理署

森林技術指導官 大野裕康

1. 課題を取り上げた背景

一般会計化後の国有林野事業においては、我が国の森林・林業の再生に向けて、これまで以上に民有林との連携に積極的に取り組んでいく必要があります。地域の実情に沿った取組を進めるため、東濃森林管理署では、岐阜県の現地機関である恵那農林事務所と連携し、各種取組を実施しましたので紹介いたします。

2. 取組の経過

①国有林の活用に関する連携（恵那農業高校生の国有林での学習等）

東濃森林管理署では学校教育における国有林の活用について模索していました。他方、恵那農林事務所及び岐阜県立恵那農業高校では、県の「農林高校生林業就労促進事業」や「森と木と水の環境教育支援事業」の実施内容等を検討していました。署と農林事務所の連携会議においてこうした双方の課題が共有され、環境科学科1年から3年生を対象に国有林等をフィールドにした学習・実習の機会を計画しました。

②民国連携による森林整備の推進（森林共同施業団地の路網整備の検討）

平成24年3月に締結した「中津川市加子母地区森林整備推進協定」に基づく路網整備について、署と農林事務所が中心となり関係者間で現地踏査を行い、課題分析等の検討を行いました。

③地域の森林・林業の推進

木材利用の事例集（カレンダー）の作成や市町村森林整備委員会への技術的支援を署と農林事務所が連携して行いました。

3. 実行結果

①国有林の活用に関する連携（恵那農業高校生の国有林での学習等）

1年生は、森林施業・木材伐採搬出現場（国有林）→民間の木材市場

→製材所→モデルハウスを巡り、森林整備、木材生産、流通・加工、家造りまでの一連の流れを学びました。2年生は、木曽ヒノキの天然林で森林生態や森林管理、植生について学習しました。また3年生は森林管理の間伐について学び、実際チェーンソーを使って間伐実習を行いました。
②民国連携による森林整備の推進（森林共同施業団地の路網整備の検討）

森林整備推進協定者（5者）の担当で現地踏査を行い、来年度以降の路網整備の実現に向け課題分析等の検討を行いました。具体的には、接続を念頭にした作業道の開設に向け、隣接する国有林において新たに間伐を行うこととしました。さらに、国有林に隣接する民有林で間伐及び作業道開設が着実に行われるように、各機関の役割を明確にし、開設に向けやらなければならないことについて整理し確認しました。

③地域の森林・林業の推進

地域材の利用促進PRのためのカレンダーの作成や市町村森林整備委員会への技術的支援（市町村森林整備計画における天然更新の考え方の整理）を行いました。



高校生の国有林での学習



路網検討会

4. 考察

農林事務所と森林管理署は、民有林と国有林が一体となって森林整備・管理を進める上でのパートナーであり、今後とも相互理解を深め連携を進めていきたいと思ひます。